

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。

- 1 「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ、積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
- 2 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
- 3 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援

(1) 「確かな学力」の育成

ア より高い授業力を求め、研究授業や授業アンケートなどを活用して授業研究を行う。

※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業の工夫」に対する肯定率 85%以上を維持する。(R01:90% R02:91% R03:93%)

イ 1人1台端末などICT機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。

※ 学校教育自己診断（教職員）におけるICT機器の活用に関する肯定率 90%以上を維持する。(R01:47% R02:83% R03:97%)

(2) 観点別学習状況の評価に基づいて、評価を指導の改善に生かすという視点を重視し、授業改善を一層進める。

ア 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進する。

※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業満足度」（畷高の授業は必要な力がつく）の肯定率 90%以上を維持する。(R01:94% R02:95% R03:95%)

イ 探究活動を通じて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体的に協働しながら学ぶ力」を育成する。

※ 学校教育自己診断（生徒）による探究チャレンジへの肯定率を 80%以上とする。(R01:74% R02:75% R03:76%)

(3) 生徒が自己の将来像を描き、希望の進路を実現するための指導と支援の充実を図る。

ア 飯盛セミナーや大学研究室訪問など、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を設けてキャリア発達を促す。

イ 授業の工夫や自習室の開室などにより、生徒に自学自習で学ぶ習慣を定着させる。

ウ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行ない、自学自習の効果を向上させる。

※ 学校教育自己診断（生徒）における、「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率 95%以上を維持する。(R01:96% R02:98% R03:98%)

※ 第一志望現役合格率 50%以上をめざす。(R01:53% R02:54% R03:53%) 京都大学・大阪大学・神戸大学の合格者合計 70 名。(R01:80 名 R02:72 名 R03:82 名)をめざす。

2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成

(1) グローバル社会においてリーダーとして活躍できる資質の育成。

ア 充実した生徒会活動、部活動等により、たくましい人間力を育成する。

※ 部活動の加入率 90%以上を維持する。(R01:96% R02:98% R03:97%)

※ 複数の部活動における近畿大会以上への出場を継続させる (R01:14 部 19 種目 R02:6 部 8 種目 R03:8 部 10 種目が近畿大会以上に出場)

イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導を徹底するとともに、社会貢献や人権に対する意識の向上を図る。

※ 生徒学校教育自己診断における「挨拶をよくしている」の肯定率 90%以上をめざす。(R01:89% R02:90% R03:86%)

(2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力等の育成。

ア 英語スピーチ大会（如月杯）、2年生の探究チャレンジ成果発表会（2回）などの取組みを通じて、コミュニケーション能力、主体的に協働しながら課題に取り組む力や表現力の向上を図る。

※ 校外での各種コンクール等への応募数及び入賞数毎年 10 件以上をめざす。(R01:8 件 33 名 R02:3 件 8 名 R03:9 件 24 名)

(3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。

ア 台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を活用して、大学や関係機関の協力を得ながら、グローバルリーダーの育成に取り組む。

イ 国際共通言語としての英語が使えるよう、4技能統合型の授業や講習の充実を図り、実用英語力の向上を図る。

※ CEF RでのB1以上の到達率 250 名以上、B2以上 120 名以上をめざす。(R01 B1:281 名 B2:132 名 R02: B1:248 名 B2 91 名 R03 B1:135 名 B2:22 名)

3 学校力・教員力の向上

(1) 機動力のある組織体制づくり

ア 様々な教育課題に迅速かつ柔軟に対応できるよう、校内の各種会議の連携を密にして情報の共有を図り、組織の機動力を高める。

イ グローバルリーダー育成のための教育活動が更に推進されるよう、組織体制と業務内容について見直しと効果検証を継続的に行う。

ウ 働き方改革の実行により、仕事の負担による健康リスクの減少を図る。

※ 学校教育自己診断（教職員）における「教育活動全般にわたる評価と検証」の肯定率 70%以上を維持する。(R01:57% R02:57% R03:71%)

(2) 研修等による教員力の向上

ア 校内研修を計画的に実施し、本校の教職員として必要な資質・能力の向上を図る。

イ 初任者研修や 10 年経験者研修等を活用し、OJTを通じて教員が相互に影響しあいながら教員力を向上する体制をつくる。

(3) 広報活動の充実による教育力の向上

ア 積極的な広報活動により、本校の特色とアドミッションポリシー（求める生徒像）を発信し、本校で学ぶ意欲の高い志願者を集める。

※ 学校説明会への参加者総数（年間）1,000 名以上を維持する。(R01:2,550 名 R02:1052 名 R03:1276 名)

(4) 安全で安心な学校生活を送れるよう環境を整備する。

ア 個人情報の適正な管理を行うとともに、万が一事故が発生した際に迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。

イ 支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるよう保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実する。

ウ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制、新型コロナウイルスなど感染症対策の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。

エ 障がい等何らかの事情のある生徒が安全で安心な高校生活を送れるよう、支援検討会議を通じて合理的配慮と必要な支援を行う。

※ 学校教育自己診断（教職員）における「支援や配慮を必要とする生徒への体制づくり」の肯定率 70%以上を維持する。(R01:76% R02:67% R03:79%)

(5) 地に信頼される学校づくりを推進する。

ア 四條畷市等と連携を進め、地域と協働した取組みや小中学校との交流などを積極的に行なう。

イ 部活動や学校行事、探究活動の成果発表など本校の教育活動を通じて、地域貢献に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]				学校運営協議会からの意見				
問内容		肯定率[%]						
		生徒	保護者	教員				
(1)	学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	95.4	98.4	-	【第1回】令和4年6月15日(水) ○学校運営協議会委員出席者5名 (1)保護者からの意見書:なし (2)「令和3年度学校経営計画及び学校評価」、「令和4年度学校経営計画及び学校評価」に関して校長より説明 ・進路指導計画『なわて』の具体的成果について⇒本校の進路指導が見える化し、教職員が同じ方向を向いて指導できるようになった。 ・進路指導計画『なわて』をさらにバージョンアップして欲しい。 ・年間遅刻者数が増加した要因⇒コロナ禍による体調不良と通院、寝坊などの自己管理不足が原因である。 ・評価指標は◎が多いが、今後の評価指標はどうなるのか⇒評価目標が上限に近ければ現状維持が目標になる。 ・あいさつの減少について⇒下級生が特にあいさつできていない。 ・観点別評価について⇒試行錯誤しながら、評価と指導の一体化につなげていきたい。 ・SSH第Ⅲ期指定がとれるように頑張ってもらいたい。 ・教職員の働き方改革を進める必要がある。 (3)スクールミッション、スクールポリシーについて ・今後の予定等について説明。			
	暁高は楽しい。	96.2	89.4	-				
(2)	教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。	93.4	-	-	【第2回】令和4年11月16日(水) ○学校運営協議会委員出席者5名 (1)保護者からの意見書:なし (2)委員による授業見学。 ・生徒たちが先生と積極的に取り組んでいる。 ・熱心で質の高い授業を見せてもらった。 ・施設に関しても学べる環境が整っていて、生徒の視野が広がると感じた。 ・授業を観ていて、授業改善が進んでいると感じた。 ・「なぜこれが必要なのか?」を語っていて、勉強と社会のつながりを大切にしていると感じた。 (3)「令和4年度 取組みの進捗状況について」 ・9月の体育祭や10月の北海道修学旅行など学校行事が計画どおり実施できていて、順調である。 ・GLHS評価審議会で「AA」に評価された理由について⇒進路実績と探究活動が高く評価された。 ・習熟度別授業については、生徒たちの実力に合わせた授業が実施できている。 ・業務のスクラップ&ビルトを行い、働き方改革を進めてほしい。 (4)令和5年度使用教科書一覧について ・資料配布 (5)スクールミッション、スクールポリシーについて ・現在の方向性について説明。			
	興味を感じる授業が多い。	82.9	-	-				
	ペアワークやグループワークなどを授業に取り入れている。	-	-	92.0				
	授業におけるICT機器の活用。	-	-	100				
(3)	授業アンケートの結果を教科指導に反映。	-	-	92.0	【第3回】令和5年2月10日(金) ○学校運営協議会委員出席者5名 (1)保護者からの意見書:なし (2)「令和4年度学校経営計画及び学校評価(案)」について ・地域連携の取り組みを評価したい。 ・あいさつの減少や遅刻数の増加等については、コロナ禍の影響があるかもしれないので、年数をかけて変化を見てほしい。 ・探究活動の肯定率が上がっている。 ・教員の働き方改革について⇒教職員が楽しく働ける職場であると同時に、時間外労働が増えないように頑張ってもらいたい。 (3)「令和5年度学校経営計画及び学校評価(案)」について ・令和5年度学校経営計画の書き方について⇒内容的に大きな変化はない。 ・マスクの着用について⇒現在のところ、正式な通知はない。 ・全校一斉退庁日を円滑に実施してほしい。 (4)SSH第Ⅲ期申請について ・「探究情報」について⇒「情報Ⅰ」の内容に探究活動をさらに追加して行う。 ・「学際」とは何か⇒文理融合型の研究をさらに進めていく。 (5)スクールミッション、スクールポリシーについて ・スクールミッションについてご承認いただいた。			
	担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	83.8	-	94.0				
	学校生活についての先生の指導は納得できる。(教員:理解を得ている)	91.5	98.2	96.0				
	将来の進路や生き方について考える機会がある。	97.2	93.7	90.0				
(4)	生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	89.4	93.0	-	・人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)			
	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(教員:体制が整っている)	96.6	93.2	92.0				
(5)	担任以外にも悩みや相談に親身になってくれる先生がいる。	83.8	-	94.0	(1)生徒・保護者ともに肯定率はすべての項目で上昇した。生徒の学校生活の満足度、保護者の評価は非常に高い。 (2)生徒の授業満足度は微増し、興味を感じる授業は微減した。教員のICTを活用した授業実施率は100%で、ペアワークやグループワークの実施率は8%、授業アンケートの活用は4%上昇した。これは、授業力向上委員会を中心となって、年2回公開授業期間を設定し、「学ログ」や1人1台端末の活用、新観点別評価など、授業力向上に向けて積極的に働きかけた成果である。今後も、授業力向上委員会を中心となり、「学ログ」の活用や授業見学のテーマ設定、ICT機器の有効活用など、各教員のニーズを把握したうえで、「生徒の学力伸長や興味関心を高める授業」をめざしていきたい。 (3)生徒の「担任以外にも悩みや相談に親身になってくれる先生がいる」、保護者の「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「生命の大切さや社会のルールについて考える機会」という項目の肯定率が微減したが、それ以外の項目の肯定率は、生徒、保護者、教職員ともに上昇した。カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や3年間の進路指導計画『なわて』に基づく進路指導、丁寧な教育相談などを行っている成果が指標にも出ており、今後も進路指導や教育相談体制の充実に努めていく必要がある。 (4)今年度は3年ぶりに暁高祭などの学校行事を行事計画通り実施できた。コロナ禍での制約もある中で、生徒がいろいろな場面で協力・工夫して楽しむ姿が多くみられた。「部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い」の教員の肯定率は微減したが、それ以外の肯定率は生徒、保護者、教員いずれも上昇した。今後も部活動や学校行事を通じて、生徒の自主・自律・自由の精神を育てていきたい。 (5)探究活動及び国際交流への取り組みは、コロナ禍で制約が多かったにもかかわらず、生徒、保護者、教職員ともにすべての項目で肯定率が上昇した。これは、GL部を中心となって探究活動における全校体制を構築してきた努力の成果である。国際交流は3月に3年ぶりのオーストラリア研修旅行を予定している。また、台湾やオーストラリアに加えて、タイとのオンライン交流を新規で実施した。来年度は、探究活動の成果を地域に発信するとともに、国際交流においてはベトナムボランティアツアーなどの海外研修を復活させたい。 (6)プライバシー保護や人権尊重への取組みについては、生徒、保護者、教職員ともにすべての項目で肯定率が上昇した。人権教育に関する教職員の肯定率は8%上昇したが、今後も人権教育を充実していく必要がある。			
	部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	98.0	94.5	100				
(6)	本校の探究活動の取組みに満足。	78.7	94.7	98.0	(1)成績などの内容についてプライバシーが守られている。 (2)本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。 (3)人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)			
	本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	83.2	78.4	84.0				

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（R3年度値）	自己評価
<p>1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援</p>	<p>(1) 「確かな学力」3要素の育成 ア より高い授業力を求めた授業研究 イ 1人1台端末などICT機器を効果的に活用した授業づくり</p> <p>(2) 観点別学習状況の評価の推進による指導と評価の一体化 ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 イ 探究チャレンジ等による確かな学力の育成 ウ SSH第Ⅲ期指定をめざす</p> <p>(3) 進路実現の指導と支援 ア 習熟度別授業の実践と生徒の意欲向上 イ 進路指導計画『なわて』の有効活用 ウ 飯盛セミナーなどを通じたキャリア発達の促進 エ 自学自習の定着 オ 講習・補習等による自学自習の効果の向上</p>	<p>(1) ア・授業力向上委員会が中心となって、教員の授業力向上を図る。 ・「学ログ」を有効活用して、授業見学・授業公開・研究授業を積極的に行い、生徒の意欲関心を高める授業を実践する。 イ・1人1台端末など、ICT機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。</p> <p>(2) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 イ・3年間で5期に分け、それぞれの目標を定め、全生徒を対象にして計画的に探究チャレンジを行う。 ウ・SSH第Ⅲ期指定に向けて全校体制で取り組む。</p> <p>(3) ア・数学・英語で習熟度別授業を行って、生徒の意欲向上を促し、希望する進路の実現につなげる。 イ・希望する進路実現に向けて、3年間の進路マップ『なわて』を有効に活用し、進路指導の見える化を図る。 ウ・飯盛セミナー、大学研究室訪問を実施する。 エ・適切な課題の設定や自習室の開室などで自学自習の充実を図る。 オ・大学入試の変化や生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行う。</p>	<p>(1) ア・教員の授業観察件数1人平均5回以上 [2.5回] ・授業アンケート全校平均3.4以上の維持 [3.51] ・学校教育自己診断(生徒)「興味を感じる授業」の肯定率80%以上維持する。 [84%] イ・ICT機器の活用率 80%以上の維持 [97%]</p> <p>(2) ア・アクティブラーニング(AL)の実施率75%以上 [84%] イ・学校教育自己診断(生徒)「探究チャレンジ」の肯定率75%以上 [78%]</p> <p>(3) アイ・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率90%以上 [97%] ウ・大学研究室訪問の参加者数200人以上の維持 [370人] エオ・学校教育自己診断(生徒)「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率95%以上 [98%]</p>	<p>(1) ・授業力向上委員会が中心となり、公開授業期間を年2回に増加するなど、授業力向上に取り組んだ。人1台端末の教職員研修などを行った成果が出ている。来年度も教員の授業力向上に取り組んでいきたい。 ア・教員の授業観察件数1人平均2.9回(△) ・授業アンケート全校平均3.48(○) ・学校教育自己診断(生徒)「興味を感じる授業」の肯定率は83%に微減(○) イ・ICT機器の活用率は100に上昇(◎)</p> <p>(2) ・新観点別評価による指導と評価の一体化を、職員会議などで情報共有を図ることにより進めることができた。 ア・アクティブラーニング(AL)の実施率は92%に上昇(◎) イ・学校教育自己診断(生徒)「探究チャレンジ」に関する肯定率は79%に上昇(○)</p> <p>(3) ・進路指導計画『なわて』の模試版も新たに作成し、進路指導の一層の見える化を図った。今後も『なわて』を有効に活用していく必要がある。 アイ・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率は97%(○) ウ・大学研究室訪問の参加人数528名に増加(◎) エ・学校教育自己診断(生徒)「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率は100%に上昇(◎)</p> <p>※令和3年度GLHS評価審議会総合評価は2年連続でAA(令和4年7月公表)</p>
<p>2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成</p>	<p>(1) グローバルリーダーとしての資質の育成 ア 生徒会活動、部活動等によるたくましい人間力の育成 イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導の徹底及び社会貢献や人権に対する意識の向上</p> <p>(2) コミュニケーション能力等の育成 ア 校内発表会への取組みを通じて、能力の育成を図る</p> <p>(3) 国際交流活動の充実 ア 海外との交流を活用したグローバルリーダーの育成 イ 4技能統合型の授業や講習等による実用英語力の向上</p>	<p>(1) ア・文化祭等の行事や部活動のさらなる充実。 イ・全教員で登校時の生徒指導を行う。 ・地域清掃などの奉仕活動を継続的に行う。 ・人権意識向上に取り組み、とりわけSNSでの人権侵害については、教員研修の充実を図り一層の指導を行う。</p> <p>(2) ア・英語スピーチ大会(如月杯)、探究チャレンジ発表会(2回)などを系統的に実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>(3) ア・オンラインでの台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を通して探究チャレンジの質を向上させる。 イ・国際交流キャンプ、4技能統合型の英語授業や講習などを通じて、使える英語力を向上させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「畷高祭の工夫」に関する肯定率90%以上の維持 [94%] ・部活動の加入率90%以上(97%) イ・年間遅刻者数1000以下 [1259件] ・学校教育自己診断(生徒)「挨拶をよくする」の肯定率85%以上 [85%] ・学校教育自己診断(教職員)「人権を尊重した指導」への肯定率60%以上 [57%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「発表活動のチャンスが多い」の肯定率85%以上 [89%] ・校外のコンテスト等での入賞10件以上 [9件]</p> <p>(3) ア・海外との交流を活用した課題研究等の実施5本以上 [4本] イ・CEFRのB1レベル130名、B2レベル20名[B1 135名、B2 22名](指標を英検からGTECに変更)</p>	<p>(1) ・3年ぶりに畷高祭、体育祭、球技大会を行事計画通りに実施でき、行事での達成感が高い評価となっている。「挨拶の大切さ」を指導していく必要がある。 ア・学校教育自己診断(生徒)「畷高祭の工夫」に関する肯定率は98%に上昇(◎) ・部活動の加入率96%に微減(○) イ・年間遅刻者数1346件に微増(△) ・学校教育自己診断(生徒)「挨拶をよくする」の肯定率は79%に減少(△) ・学校教育自己診断(教員)「人権を尊重した指導」の肯定率は65%と大幅に上昇(◎)</p> <p>(2) ・コロナ禍で外部のコンテストが減少したが、校内ではデジタルポスターなど発表形式を工夫して、発表の機会を確保した。来年度以降もアウトプットの機会を確保していく必要がある。 ア・コロナ禍で発表機会が減る中、学校教育自己診断(生徒)「発表活動のチャンスが多い」の肯定率は、96%に大幅に上昇(◎) ・校外のコンテスト等での入賞は11件に増加した(○)</p> <p>(3) ・オーストラリア研修を3月に実施予定。オンラインで台湾とのペンパルプロジェクトやオーストラリアとのカード交換を継続。タイとのオンライン交流を新規実施。来年度以降はベトナムボランティアツアー等も再開したい。 ア・コロナ禍で国際交流ができない中、海外との課題研究等の実施3本(NAIST)(△) イ・CEFRのB1レベル161名、B2レベル40名(◎)</p>

府立四條畷高等学校

<p style="text-align: center;">3 学 校 力 ・ 教 員 力 の 向 上</p>	<p>(1) 機動力のある組織体制 ア ミドルアップダウン型の運営体制づくり イ グローバルリーダー育成のための組織と業務の見直し及び検証 ウ 働き方改革の実行による仕事の負担リスク減少</p> <p>(2) 研修等による教員力の向上 ア 校内研修を計画的実施 イ 法定研修を活用したOJTによる教員力の向上</p> <p>(3) 広報活動の充実による教育力の向上 ア 広報活動による本校の特色とアドミッションポリシーの発信</p> <p>(4) 安全で安心な学校生活への環境整備 ア 個人情報の適正な管理と事故対応への体制整備 イ 障がい等による支援や指導を要する生徒への適切な対応 ウ 災害や事故等発生時の体制整備、感染症対策の徹底</p> <p>(5) 地元信頼される学校づくり ア 四條畷市等との連携 イ 部活動や学校行事、探究チャレンジの成果発表などを通じた地域貢献</p>	<p>(1) ア・経営企画会議、授業力向上委員会、将来構想検討委員会を通じて課題認識の共有を図り、教職員研修を通じて課題解決に向けてのコンセンサスを作る。 イ・GL部を中心に全校体制で探究チャレンジの指導に取り組み、SSH第Ⅲ期指定を獲得する。(再掲) ウ・全校一斉退庁日の有効実施。 ・教職員間の情報共有に努め、風通しの良い職場環境を作る。</p> <p>(2) ア・スキルアップ研修等、校内研修の計画的実施 イ・メンター制度によりOJTで初任者、2年め、10年め教員の相互育成を図る。</p> <p>(3) ア・校内・外での学校説明会などで積極的に本校の特色とアドミッションポリシーを発信する。</p> <p>(4) ア・個人情報の適正な管理と事故対応について周知徹底を図る。 イ・障がい等支援が必要な生徒には支援検討会議が中心となって合理的配慮に基づく支援を行う。 ・不登校など配慮の必要な生徒等に対する初期対応を手厚くするとともに、SCとの連携を図り、支援検討会議を通じて必要な支援を行う。 ウ・防犯・防災計画、大規模災害時初期対応マニュアル等の内容を周知徹底する。 ・新型コロナウイルス等感染症対策の徹底を図る。</p> <p>(5) ア・小中学校への出前授業やオープンラボ等、四條畷市等と交流した取組みを行う。 イ・地域学「なわて学」などを通じて、地域住民に向けた部活動の取組みや探究チャレンジの成果発表などを行う。 ・北河内サイエンスディによって本校の教育活動を地域の高校に広げていく。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(教職員)「各種会議が有効に機能」の肯定率 60%以上 [53%] ・学校教育自己診断(教職員)「教育活動全般の評価と検証」の肯定率を70%以上 [71%] イ・学校教育自己診断(教職員)「探究チャレンジの取組み」の肯定率を80%以上 [93%] ウ・全校一斉退庁日における残留者の減少(月ごと前年度比較) ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスク90以下の維持 [77]</p> <p>(2) ア・年間教職員研修の回数10回以上を維持する [11回] イ・初任者ミーティング等、研修の効果測定を行い、肯定率を90%以上とする。 [96%]</p> <p>(3) ア・学校説明会への参加者数1100名以上の維持 [1276名]</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断(教員)「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率75%以上 [77%] イ・学校教育自己診断(教員)「支援や配慮」に関する肯定率70%以上 [79%] ウ・防犯・防災計画や新型コロナウイルス等感染症対策の情報共有の徹底</p> <p>(5) ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みの増加 [4種類] イ・地域住民等に向けた取組みの増加 [4種類] ・北河内サイエンスディによる地域的取組みの継続</p>	<p>(1) ・SSH第Ⅱ期5年を終え、探究活動の全校体制は一層進展した。今年度は会議資料や生徒アンケートの電子化等の校務運営の効率化を行った。来年度も各種会議の連携と働き方改革を一層進めていく必要がある。 ア・学校教育自己診断(教職員)「各種会議が有効に機能」の肯定率61%に上昇 (○) ・学校教育自己診断(教員)「教育活動全般の評価と検証」の肯定率は74%に上昇 (○) イ・学校教育自己診断(教員)「探究活動の取組み」の肯定率は98%と大幅に上昇 (◎) ウ・全校一斉退庁日における残留者は412人に減少。昨年度同時期539名 (◎) ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスクは83に微増(○)</p> <p>(2) ア・将来構想検討委員会主催の教職員研修2回(スクールミッション、探究活動)、スキルアップ研修及び分析検討会7回、人権教育研修3回、救急講習1回など、教職員研修は13回 (◎) イ・初任者ミーティング等の肯定率100% (◎)</p> <p>(3) ・3年ぶりにオープンスクールを実施し、多くの中学生が参加してくれた。来年度は中学生に畷高祭見学させたい。 ア・学校説明会への参加者数は昨年度よりも増加し1844名 (◎)</p> <p>(4) ・支援検討会議による不登校生徒等への支援や配慮など、教育相談体制が充実した。来年度以降も教育相談に一層力を入れていく必要がある。 ア・学校教育自己診断(教員)「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率は88%と大幅に上昇 (◎) イ・学校教育自己診断(教員)「支援や配慮」に関する肯定率は大幅に上昇して88% (◎) ウ・防犯・防災計画や新型コロナウイルス等感染症対策の情報共有の徹底ができた。</p> <p>(5) ・中学生を対象とした北河内サイエンスディや探究ラボ、小学生対象のサッカー教室と科学実験教室、四條畷市主催の発表会への参加、地域清掃などを実施。来年度以降も地域連携を一層進めていきたい。 ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みは5種類 (◎) イ・地域住民等に向けた取組みは6種類 (◎)</p>
---	--	--	---	---